

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3166064号
(U3166064)

(45) 発行日 平成23年2月17日 (2011.2.17)

(24) 登録日 平成23年1月26日 (2011.1.26)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 G 7/02 (2006.01)

A 6 1 G 9/00 (2006.01)

A 6 1 G 7/02

A 6 1 G 9/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	実願2010-7946 (U2010-7946)	(73) 実用新案権者	500407569
(22) 出願日	平成22年12月6日 (2010.12.6)	柴崎 章	
		神奈川県鎌倉市雪ノ下3-1-11	
		(74) 代理人	100098589
		弁理士 西山 善章	
		(74) 代理人	100097559
		弁理士 水野 浩司	
		(74) 代理人	100123674
		弁理士 松下 亮	
		(72) 考案者	柴崎 章
		神奈川県鎌倉市雪ノ下3-1-11	

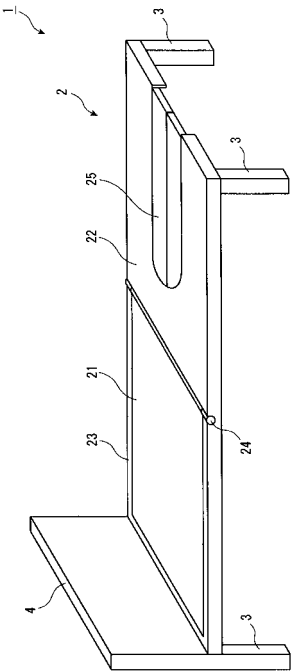
(54) 【考案の名称】 介護用ベッド

(57) 【要約】

【課題】構成が簡易であると共に、被介護者がベッド上に居ながらにして楽な姿勢で用を足すことが可能な介護用ベッドを提供する。

【解決手段】被介護者を乗せる基台部2と、その基台部2を支持する脚部3を備える介護用ベッド1において、前記基台部2が、リクライニング機構を備え任意の角度にリクライニング可能な上半身支持部21と、ベッド短尺方向の略中央部でベッド足部側に開いた開口とその開口を開閉する扉状の開閉部25とを備える下半身支持部22と、を備え、通常時は前記開閉部25で前記開口を塞ぎ、排泄時は前記上半身支持部21を起し、前記開閉部25を開いて前記開口を露出する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

被介護者を乗せる基台部と、該基台部を支持する脚部を備える介護用ベッドにおいて、前記基台部が、リクライニング機構を備え任意の角度にリクライニング可能な上半身支持部と、ベッド短尺方向の略中央部でベッド足部側に開いた開口と該開口を開閉する扉状の開閉部とを備える下半身支持部と、を備え、

通常時は前記開閉部で前記開口を塞ぎ、排泄時は前記上半身支持部を起こし、前記開閉部を開いて前記開口を露出することを特徴とする介護用ベッド。

【請求項 2】

前記開口が、ベッド頭部側に凸な略凸字状の開口であり、

10

前記扉状の開閉部は前記略凸字状開口の幅狭部に設けられ、さらに前記下半身支持部は前記略凸字状の幅広部に取り外し可能な支持板を備え、

通常時は前記開閉部及び支持板で前記開口を塞ぎ、排泄時は前記上半身支持部を起こし、前記開閉部を開くと共に前記支持板を外して前記開口を露出することを特徴とする請求項 1 に記載の介護用ベッド。

【請求項 3】

前記開閉部の下部に、排泄物収容容器を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の介護用ベッド。

【請求項 4】

前記排泄物収容容器が、キャスター付き容器であることを特徴とする請求項 3 に記載の介護用ベッド。

20

【請求項 5】

前記排泄物収容容器が、便器付き車椅子であることを特徴とする請求項 3 に記載の介護用ベッド。

【請求項 6】

前記開閉部が、両開き扉状であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の介護用ベッド。

【請求項 7】

前記開閉部が、片開き扉状であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の介護用ベッド。

30

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、病人や高齢者、怪我人等、介護を必要とする寝たきりの被介護者が伏臥、就寝するためのベッドに係り、特に被介護者がベッド上で排泄することを可能にする介護用ベッドに関する。

【背景技術】**【0002】**

これまで、病人や高齢者、怪我人等、介護を必要とする寝たきりの被介護者に対する排泄の介助は、主に尿瓶やポータブル便器、おむつ等を用いて行われている。

40

【0003】

しかしながら、尿瓶やポータブル便器、おむつ等を用いて、伏臥した状態で用を足す場合、排泄口が下を向かず重力を利用して排泄することができないため、腹圧を余分にかけ排泄する必要がある。そのため、力の弱った被介護者の場合、スムーズな排泄が困難となることがあった。

【0004】

そこで近年では、余分な力を必要としない座位での排泄が可能な、取り外しできる便器付きの車椅子等も用いられている。

【0005】

一方、ベッド自体に排泄用の設備が設けられた介護用ベッドは、これまでに様々なもの

50

が開発され市販されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開平 10 - 234788 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、上述のような便器付きの車椅子は、様々な場所に移動可能で便利である反面、被介護者を介して用を足すたびにベッドから移乗させる必要があり、これが介護者にとって重労働となると共に、被介護者にとってもストレスとなるという問題があった。

10

【0008】

さらに、これまでの介護用ベッドは設備が大掛かりかつ複雑であって、高価であるという難点があった。

【0009】

本考案は、上記状況に鑑み、構成が簡易であると共に、被介護者がベッド上に居ながらにして楽な姿勢で用を足すことが可能な介護用ベッドを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記課題を解決するために、本考案は、被介護者を乗せる基台部と、その基台部を支持する脚部を備える介護用ベッドにおいて、前記基台部が、リクライニング機構を備え任意の角度にリクライニング可能な上半身支持部と、ベッド短尺方向の略中央部でベッド足部側に開いた開口とその開口を開閉する扉状の開閉部とを備える下半身支持部と、を備え、通常時は前記開閉部で前記開口を塞ぎ、排泄時は前記上半身支持部を起こし、前記開閉部を開いて前記開口を露出することを特徴とする介護用ベッドを提供する。

20

【0011】

ここで、前記開口が、ベッド頭部側に凸な略凸字状の開口であり、前記扉状の開閉部は前記略凸字状開口の幅狭部に設けられ、さらに前記下半身支持部は前記略凸字状の幅広部に取り外し可能な支持板を備え、通常時は前記開閉部及び支持板で前記開口を塞ぎ、排泄時は前記上半身支持部を起こし、前記開閉部を開くと共に前記支持板を外して前記開口を露出する介護用ベッドであっても良い。

30

【0012】

なお、前記開閉部の下部には、排泄物収容容器を備えるのが好適である。

【0013】

この排泄物収容容器は、キャスター付き容器であるのが望ましいが、便器付き車椅子であっても良い。

【0014】

また、前記開閉部は、両開き扉状、もしくは片開き扉状とするのが良い。

【考案の効果】

【0015】

40

本考案の介護用ベッドによれば、被介護者がベッド上で排泄できるため、介護者の負担を減らすことができると共に、被介護者にとっても椅子に座るような楽な姿勢で排泄することが可能となる。また、本考案の介護用ベッドは、構成が従来に比べて簡易であるため、安価に提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図 1】本考案の第 1 の実施形態に係る介護用ベッドの概略を示す斜視図である。

【図 2】図 1 に示す介護用ベッドの上半身支持部をリクライニングさせると共に、開口を露出した状態を示す斜視図である。

【図 3】図 1 に示す介護用ベッドの上面図である。

50

【図４】図１に示す介護用ベッドの開閉部を開閉した各状態を示す模式図である。

【図５】図１に示す介護用ベッドに排泄物収納容器をセットした状態の一例を示す模式図である。

【図６】本考案の第２の実施形態に係る介護用ベッドの概略を示す斜視図である。

【図７】図６に示す介護用ベッドの上半身支持部をリクライニングさせると共に、開口を露出した状態を示す斜視図である。

【図８】図６に示す介護用ベッドの上面図である。

【図９】図６に示す介護用ベッドに排泄物収納容器をセットした状態の一例を示す模式図である。

【図１０】本考案の一実施形態に係る介護用ベッドにおいて、片開き扉状の開閉部の一例を示す模式図である。

10

【考案を実施するための形態】

【００１７】

以下、本考案の実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。

【００１８】

〔第１の実施形態〕

図１は、本考案の第１の実施形態に係る介護用ベッドの概略を示す模式図である。また、図２は、その介護用ベッドの上半身支持部をリクライニングさせると共に、開口を露出した状態を示す斜視図である。さらに、図３は、介護用ベッドの上面図である。

【００１９】

20

これらの図に示すように、本実施形態の介護用ベッド１は、寝具及び被介護者を載置する基台部２と、この基台部２を支持する脚部３とを備える。また、ここでは介護用ベッド１を使用する被介護者の頭部側の位置に、ヘッドボード４を備えている。

【００２０】

基台部２は、上半身支持部２１と、下半身支持部２２とからなる。また、上半身支持部２１を支持するフレーム部２３を有する。上半身支持部２１は、図２に示すように、下半身支持部２２との境目に設けられたヒンジ部２４と、リクライニング機構（図示せず）により、下半身支持部２２に対してリクライニングすることが可能である。ここで、リクライニング機構は、リモコン等で操作可能な公知の電動リクライニング機構を用いるのが好適である。

30

【００２１】

下半身支持部２２には、排泄用の開口２７が設けられており、通常時は開閉部２５で塞がれている。開閉部２５は、二枚の扉板２５Ａ、２５Ｂと、この扉板２５Ａ、２５Ｂを開閉可能に枢着するヒンジ部２６（図４参照）とから構成されている。そして、必要に応じて開閉部２５の扉板２５Ａ、２５Ｂは、手動もしくは電動で開閉される。

【００２２】

なお、ここでは開閉部２５の端部を被介護者の座り心地や安定性を考慮して略円弧状にした例を図示しているが、矩形状等にしても良い。

【００２３】

40

図４は、開閉部２５を開閉した各状態を示す模式図であり、図４（ａ）は閉じた状態、図４（ｂ）、図４（ｃ）は開いた状態を示している。これらの図に示すように、開閉部２５は、各扉板２５Ａ、２５Ｂが下向きの方に開いて、開口２７を露出させることができる。このような開閉部２５の開閉は、公知の電動開閉機構を利用して、リモコン等の操作によって行うのが望ましい。あるいは、通常時は掛け金やカンヌキのような簡易な構成で扉板２５Ａ、２５Ｂを閉じ、用を足す際にはこれを外して扉板２５Ａ、２５Ｂを開く等、手動によって行う構成としても良い。なお、扉板２５Ａ、２５Ｂが開く角度は、図４（ｂ）に示す程度の角度（略垂直）であっても良いが、後述する排泄物収容容器の入れやすさ等の観点からは、図４（ｃ）に示す程度の角度まで開くことが望ましい。

【００２４】

開口２７の下部には、排泄物を収容するための容器を配置する。図５にその一例を示す

50

。図 5 (a) に示すように容器 5 を用意し、用を足す際には図 5 (b) に示すように開口 2 7 の真下に配置して使用する。なお、ここではキャスター 5 1 を備える容器 5 を図示したが、ポータブル便器やバケツ等の既存の容器であっても良い。さらに、上述したような便器付きの車椅子を容器として使用することも可能である。

【 0 0 2 5 】

なお、脚部 3 には、基台 2 の高さを調節するための高さ調節機構を備えるようにしても良い。それにより、既存の便器付き車椅子や、既存のポータブル便器等を容器 5 として用いた場合に高さを合わせることが可能となる。

【 0 0 2 6 】

上記のような本実施形態の介護用ベッド 1 を使用する際の手順について、以下に説明する。

10

【 0 0 2 7 】

まず通常時には、被介護者は開口を閉じた状態の介護用ベッド 1 に、マットレスや敷布団等の寝具を敷いた上で伏臥する。これらの寝具は、排泄時に下半身支持部 2 2 側のみベッド 1 から外すことができるよう、略中央で二つに分割可能なものを用いるのが好適である。

【 0 0 2 8 】

用を足す際には、まずリクライニング機構によって上半身支持部 2 1 をリクライニングさせ、背凭れとする。また、下半身支持部 2 2 側に敷いてある寝具を外し、被介護者の衣服を脱がせる等の準備をする。さらに、開閉部 2 5 を開いて開口 2 7 を露出させ、図 5 に示すように容器 5 を開口 2 7 の下の正しい位置にセットし、被介護者の腰部を開閉部 2 5 に対して適切な位置に移動させる。

20

【 0 0 2 9 】

このように、本実施形態では、ベッド上に居ながらにして楽な態勢で用を足すことを可能にする。

【 0 0 3 0 】

〔 第 2 の実施形態 〕

図 6 は、本考案の第 2 の実施形態に係る介護用ベッドの概略を示す模式図である。また、図 7 は、その介護用ベッドの上半身支持部をリクライニングさせると共に、開口を露出した状態を示す斜視図である。さらに、図 8 は、介護用ベッドの上面図であり、図 8 (a) は開口を塞いだ状態、図 8 (b) は開口を露出した状態を示している。

30

【 0 0 3 1 】

これらの図に示すように、本実施形態の介護用ベッド 6 は、開閉部 7 5 と共に被介護者の足部側に取り外し可能な足部支持板 7 8 を設けることにより、開口 7 7 を広くしている。これにより、被介護者は膝を曲げて足を自然に下ろした状態で用を足すことができるため、より楽な姿勢を取ることが可能となる。以下、詳細に説明する。

【 0 0 3 2 】

本実施形態の介護用ベッド 6 は、寝具及び被介護者を載置する基台部 7 と、この基台部 7 を支持する脚部 8 とを備える。また、ここでは介護用ベッド 6 を使用する被介護者の頭部側の位置に、ヘッドボード 9 を備えている。

40

【 0 0 3 3 】

基台部 7 は、上半身支持部 7 1 と、下半身支持部 7 2 とからなる。また、上半身支持部 7 1 を支持するフレーム部 7 3 を有する。上半身支持部 7 1 は、図 7 に示すように、下半身支持部 7 2 との境目に設けられたヒンジ部 7 4 と、リクライニング機構 (図示せず) により、下半身支持部 7 2 に対してリクライニングすることが可能である。ここで、リクライニング機構は、リモコン等で操作可能な公知の電動リクライニング機構を用いるのが好適である。

【 0 0 3 4 】

下半身支持部 7 2 には、排泄用の開口 7 7 が図 8 (b) に示すように略凸字状に設けられており、通常時は開閉部 7 5 及び足部支持板 7 8 で塞がれている。開閉部 7 5 は、二枚

50

の扉板 75 A、75 B と、この扉板 75 A、75 B を開閉可能に枢着するヒンジ部（図示せず）とから構成されている。そして、必要に応じて開閉部 75 の扉板 75 A、75 B は、手動もしくは電動で開閉される。このような開閉部 75 の開閉は、公知の電動開閉機構を利用して、リモコン等の操作によって行うのが望ましい。あるいは、通常時は掛け金やカンヌキのような簡易な構成で扉板 75 A、75 B を閉じ、用を足す際にはこれを外して扉板 75 A、75 B を開く等、手動によって行う構成としても良い。

【0035】

なお、ここでは開閉部 75 の端部（被介護者の臀部側の端部）を、被介護者の座り心地や安定性を考慮して略円弧状にした例を図示しているが、矩形状等にしても良い。

【0036】

開閉部 75 の端部（被介護者の足部側の端部）には、下半身支持部 72 に対して取り外しが可能な足部支持板 78 が配置されている。この足部支持板 78 を外すと、図 7 に示すように開口 77 を広く取ることができる。また、開閉部 75 の長さが短いため、開閉部 75 上に腰かけた際に膝下を自然に下ろすことが可能となる。なお、この足部支持板 78 は、基台部 7 のフレーム部 79 によって支持される。

【0037】

開閉部 75 の下部には、排泄物を収容するための容器を配置する。図 9 にその一例を示す。図 9（a）に示すように容器 5 を用意し、用を足す際には図 5（b）に示すように、開いた状態の開閉部 75 の真下に配置して使用する。なお、ここではキャスター 51 を備える容器 5 を図示したが、ポータブル便器やバケツ等の既存の容器であっても良い。さらに、上述したような便器付きの車椅子を容器として使用することも可能である。

【0038】

なお、脚部 8 には、基台 2 の高さを調節するための高さ調節機構を備えるようにしても良い。それにより、既存の便器付き車椅子や、既存のポータブル便器等を容器 5 として用いた場合に高さを合わせることが可能となる。

【0039】

上記のような本実施形態の介護用ベッド 6 を使用する際の手順について、以下に説明する。

【0040】

まず通常時には、被介護者は開口を閉じた状態の介護用ベッド 6 に、マットレスや敷布団等の寝具を敷いた上で伏臥する。これらの寝具は、排泄時に下半身支持部 72 側のみベッド 6 から外すことができるよう、略中央で二つに分割可能なものを用いるのが好適である。

【0041】

用を足す際には、まずリクライニング機構によって上半身支持部 71 をリクライニングさせ、背凭れとする。また、下半身支持部 72 側に敷いてある寝具を外し、被介護者の衣服を脱がせる等の準備をする。さらに、開閉部 75 を開き足部支持板 78 を取り外して開口 77 を露出させ、図 9 に示すように容器 5 を開閉部 75 下の正しい位置にセットし、被介護者の腰部を開閉部 75 に対して適切な位置に移動させる。

【0042】

このように、本実施形態では、ベッド上に居ながらにして、さらに楽な態勢で用を足すことを可能にする。

【0043】

なお、上記各実施形態では、開閉部 25、75 が両開き扉状である例を図示したが、これに限らず図 10 に示すように開閉部 125 は片開き扉状であっても良い。

【0044】

上記のように、本考案の介護用ベッドによれば、被介護者がベッド上で排泄できるため、介護者の負担を減らすことができると共に、被介護者にとっても椅子に座るような楽な姿勢で排泄することが可能となる。また、本考案の介護用ベッドは、構成が従来に比べて簡易であるため、安価に提供することができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 5 】

以上、本考案の実施形態について説明したが、本考案は上記実施形態に限定されるものではなく、本考案の趣旨に基づき種々の変形が可能であり、これらを本考案の範囲から排除するものではない。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 4 6 】

本考案は、病人や高齢者、怪我人等、介護を必要とする寝たきりの被介護者が伏臥、就寝するためのベッドに係り、特に被介護者がベッド上で排泄することを可能にする介護用ベッドに関し、産業上の利用可能性を有する。

【 符号の説明 】

10

【 0 0 4 7 】

1 介護用ベッド

2 基台部

2 1 上半身支持部

2 2 下半身支持部

2 3 フレーム部

2 4 ヒンジ部

2 5 開閉部

2 5 A 扉板

2 5 B 扉板

20

2 6 ヒンジ部

2 7 開口

3 脚部

4 ヘッドボード

5 容器

5 1 キャスター

6 介護用ベッド

7 基台部

7 1 上半身支持部

7 2 下半身支持部

30

7 3 フレーム部

7 4 ヒンジ部

7 5 開閉部

7 5 A 扉板

7 5 B 扉板

7 7 開口

7 8 足部支持板

7 9 フレーム部

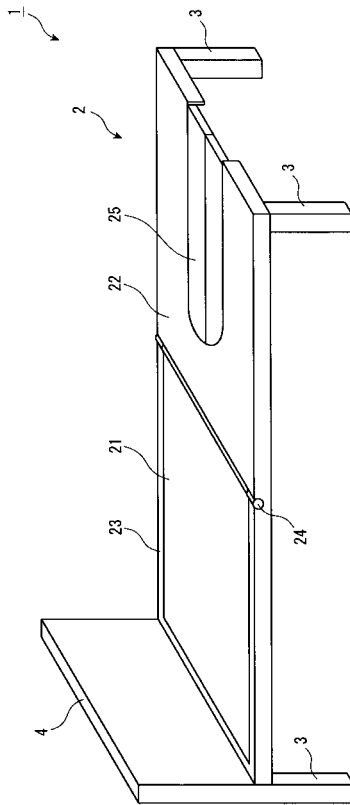
8 脚部

9 ヘッドボード

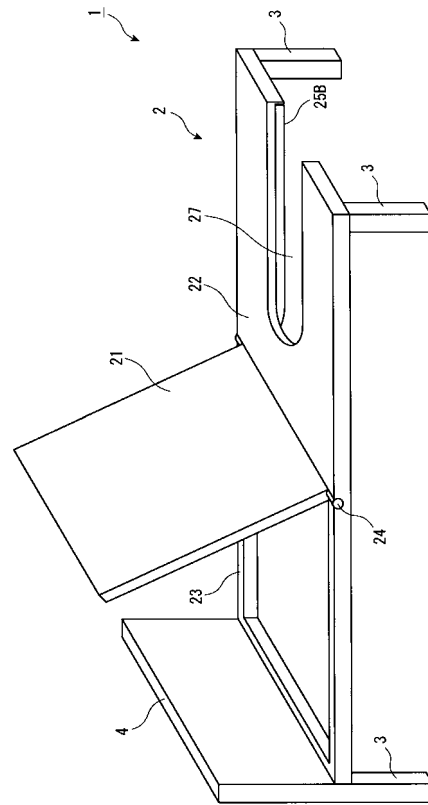
40

1 2 5 開閉部

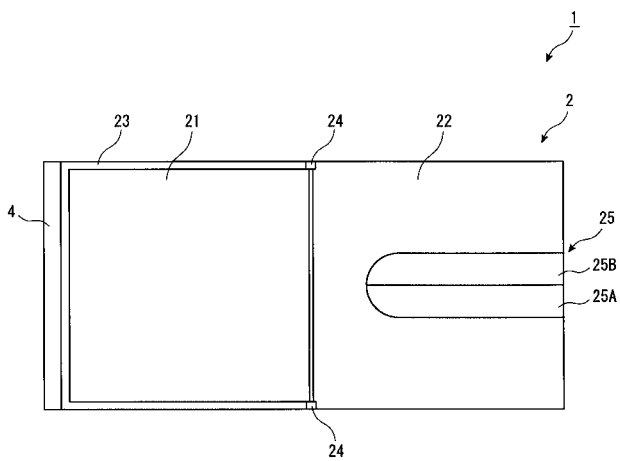
【図 1】



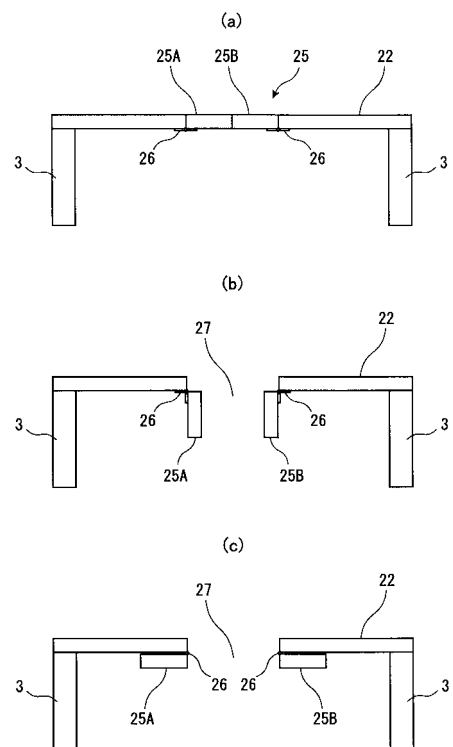
【図 2】



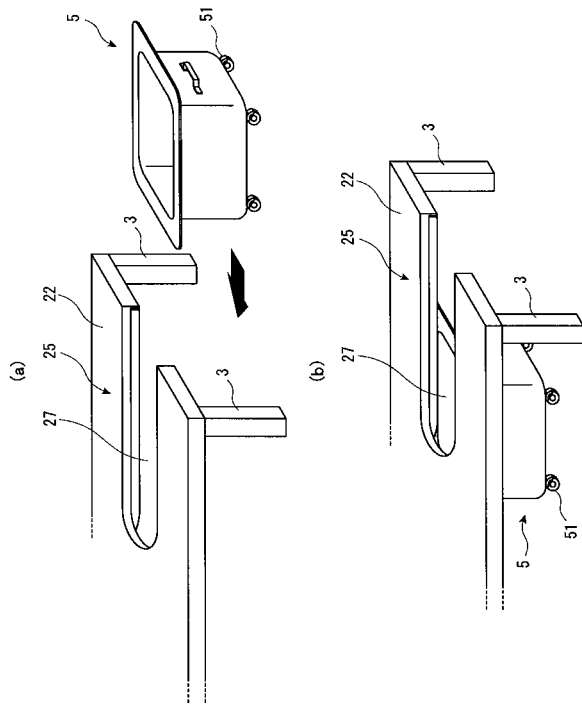
【図 3】



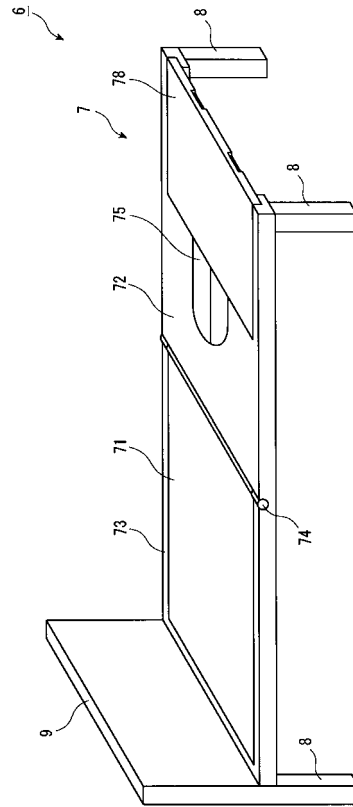
【図 4】



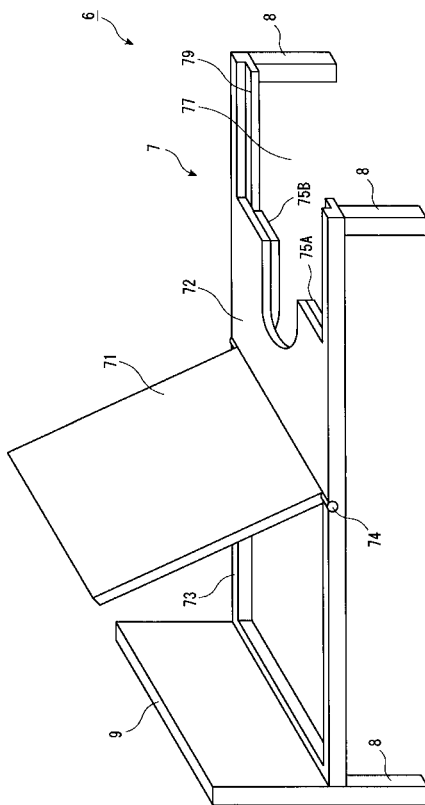
【図 5】



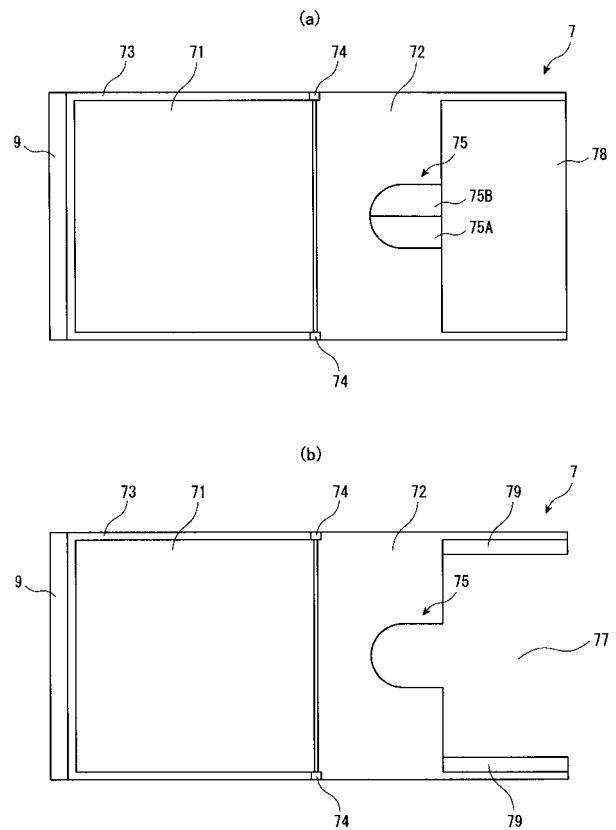
【図 6】



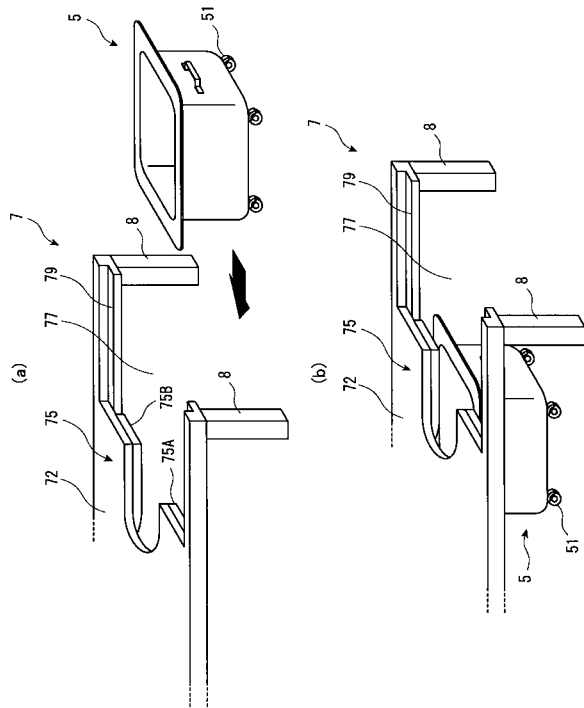
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

